

MLA48

NEWS
LETTER

2017年7月8日
No.124

MLA48プロジェクト

7月度ミーティング(MLA48 通算第73回)

7月7日(金), [MLA48プロジェクト](#)セタミーティングを開催しました. はじめに[JA1QC 山本さん](#)からは, [MLAでJT65 3W QRP運用](#)の全QSO実績の報告があり, 660局の内100局以上はDX局とのこと. パワーで解決(?)という局にとっては, この一貫したこだわりは「ピリリと辛い」かも…

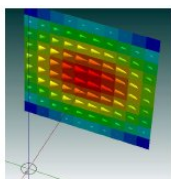


[JA5KVK 小川さん](#)からは, 前回話題をさらった「[提灯MLA](#)その後編」の発表. DVDケースにピタリと収まって, 装飾品の置物のよう. 外見から想像できない実力は, オンエアミーティングで実証済. さらに2つを位相差給電したところ, 受信のRSレポートは59から59+にアップしたとのことです. 前回の結合ループ給電から, [JG1UNE 小暮の端部給電方式](#)に換えても問題ないようですが, コモンモードチョークは必須です.

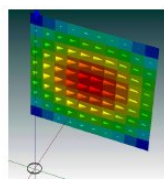
[S-NAP Wireless Suite](#)で電磁界シミュレーションしたところ, 10m前方の電界の向きがおもしろい変化をしています. ピッチ30~100mmは水平方向で, 100mm 辺りから上向き, 300mmでは垂直です. また, ピッチ300mmでは10~50m地点で観測した電界ベクトルが回転



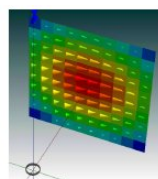
しているとのこと. ヘリカル径は波長に比べて十分小さいので, 新発見かも…



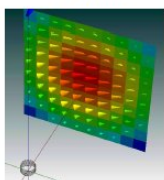
1T MLA



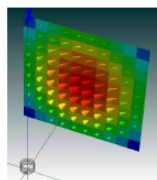
Pitch=30



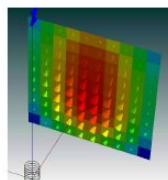
Pitch=50



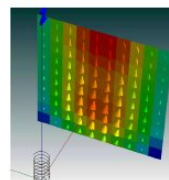
Pitch=100



Pitch=120



Pitch=200

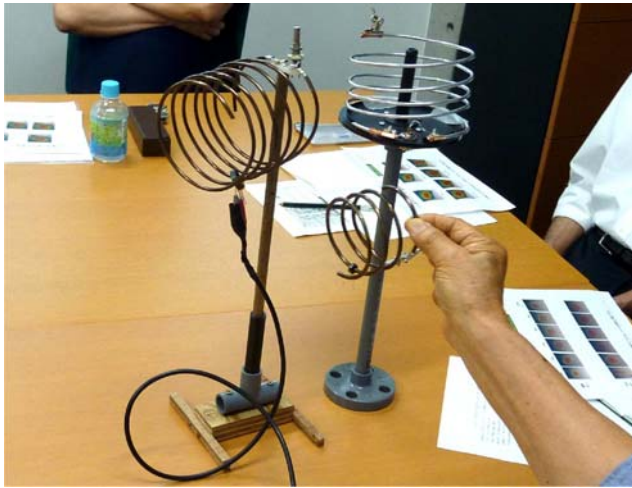


Pitch=300

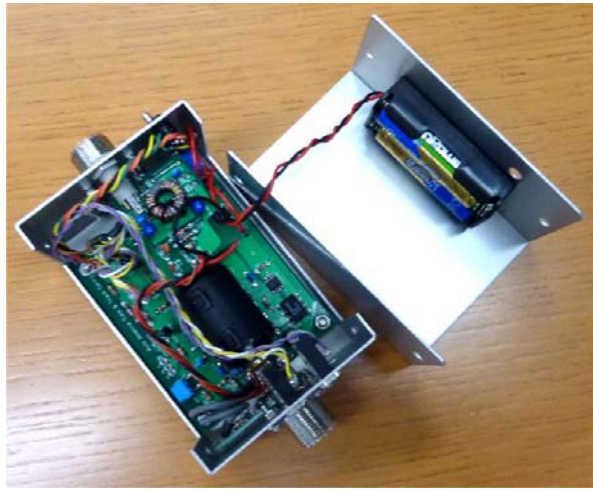
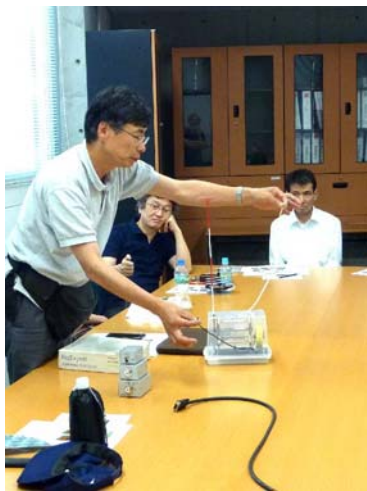
7MHz 1000mm 径 10m 前方における電界ベクトル



50MHz 用「提灯ヘリカル」



JA1BJJ 大島さんも製作され、例によって為になる失敗談(?)を交えて発表。50, 144, 430MHzと、スケール変換で再現性の確認をされています。給電はトロイダルコア方式、先端付近に調整用バリコン付きです。**JA1HIS 横田さん**も実験していますが、ベランダ設置では調整がクリティカルとのこと。



JR1OAO 中島さんの「**自動同調整合追従器**」**JF1VNR 戸越さん**の「**MLAコントローラ**」は、ハムフェアの自作品コンテストに応募されましたが、是非ブースでご本人とアイボールを。中島さんは、**全日本長中波倶楽部**のブースで展示する作品も持参。ジオラマのようなアンテナ模型は手押しで揺れるようになっており、模擬大地も内蔵されているので、アンテナが揺れてチューニングがずれても「**自動同調整合追従器**」が働くというおもしろいデモがブースで見られるとのことです(写真左)。

JF1IQQ 下地さんは、この回路の基板を設計されキット化されるとのこと。完成品をご披露いただきました。メンバー頒布が待ち遠しいですが、できあがったセットが正しく動作していることの検証をどのように実現するのか思案中…(基板は①本体、②ピックアップ、③バイアスTの3枚構成)

最後に、ハムフェアのブース展示に向けて、出展の募集と作品に関する記事原稿のお願いを傳達しました。今年のテーマは、①ちょっと変わったMLA、②超大型MLA、③MLAで6mDX、④MLAで160mDXといった「ホント?」「両極端!」の総出演。製作・調整に必須の⑤自作測定器群も展示されます。



🌀 MLAはわからないことがいっぱい。抱え込んだままでは辛いので、ムリヤリ理論をあてがいがちですが、ここはいちばん、思考を続けましょう。すべてわかってしまったら、それは解散の時なのかもしれません。

JK1MKP ex.JH0NXR JA5KVK JF1IQQ JA1BJJ JA1HIS JF1VNR JI1TVB JA3UOQ
前列着席 JR1OAO JA1UHJ JA1QC JI1DCS JA1AVV JG1UNE

DE JG1UNE

